



祝祭日には



を掲げましょう

いまこそ集落創生

第18回 谷口地区



旧谷口分校の空中写真（平成29年5月17日にドローンで撮影）。現在は更地になっているこの地に今秋、19本のオオヤマザクラが植えられる。満開の桜で埋め尽くされる新たな光景を住民の皆さんも今から楽しみだと話す。

北東から南西へ約4kmにわたって住宅が続き、県道平岡日当に沿って集落を形成している谷口地区。谷口・菅越・手代森の3集落で構成されており、およそ120名（30世帯）が暮らしています。

「ここ2、3年、地区でも色々なことがあった」と日向幸一区長は話します。谷口銀山とともに地域のシンボルとして活用されてきた旧谷口分校が、思いもよらぬ火災により焼失したのは2年半ほど前の出来事。区長は「分校を拠点に、たくさんの交流が生まれた。母校として住民の思い出が詰まっていたことを思うと、言葉が出なかった」と振り返ります。現在は更地となっている分校跡地。町でも活用方法を検討していましたが、このたび11月2日、地区の協力を得て山形新聞・山形放送の「最上川さくら回廊事業」で、オオヤマザクラの苗木19本が植え付けられることが決まりました。「桜が大きく育ち、新たな交流のきっかけになればよい」と春が待ち遠しように区長は話します。

地区運営の基本は「後世に負担のかかるようなものは残していかない」。水路などの共有財産について、管理のしやすい方法を検討していく方針のよう。現役世代が減少している中にあるのは、合理的な方法なのかもしれません。一方で、谷口地区には複数の歴史的資産が現存。現地調査をした横浜国立大学の大野教授は、地域と大学が連携を強化し、価値を活かした継承手法を検討する必要があるとしています。銀山や分校跡地、旧家住宅など高い潜在能力を秘める谷口地区。各方面の協力を得ながら、植樹を皮切りに資源の活用にも挑んでいきます。

金山町の人口は、5,452人（7月末現在）

男性	2,652人（-5）
女性	2,800人（-3）
世帯数	1,760世帯

▼7月の異動

出生	2人
死亡	8人
転入	1人
転出	3人

編集 幸記

▼今年の夏は暑かった。毎年言っている気もしますが、この猛暑はしっかりデータが示しています。気象庁金山観測所の計測によると、8月5日から4日連続で35℃越えの猛暑日。昨年8月23日に観測した過去最高気温36.8℃は惜しくも（？）更新できませんでしたが、記憶に残る暑い夏となりました。

▼夏といえば金山まつり。今年も皆さんの躍動を記録させていただきました。全てを載せきれず申し訳ですが、ぜひご覧下さい。（つま）